

付篇 常呂実習施設 平成 20 (2008) ～ 平成 21 (2009) 年度の活動記録

1 活動の概要

平成 20(2008)年度～平成 21(2009)年度における、本施設をめぐる主要な動向は以下の二点である。第一点は、平成 3(1991)年度より継続して実施されてきたトコロチャシ跡遺跡群の発掘調査が平成 21(2009)年度で終了したことが挙げられる。この 19 年にも及ぶ調査の成果については、平成 9(1997)年度までの分はすでに報告書を刊行済みであり(『トコロチャシ跡遺跡』(東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設、2001 年))、また 1998 年度以降の成果については平成 23(2011)年 3 月に報告書を刊行すべく、現在作業を進めている。第二点は組織体制に関するもので、平成 20(2008)年度末に急遽決定した助教の転任により、平成 21(2009)年度は准教授 1 名のみでの体制での運営となった。昭和 48(1973)年に本施設が正式に設置されて 2 名の体制になって以来、実に 36 年ぶりの 1 名体制である。ちなみに平成 22(2010)年度には新たに助教を採用し、2 名の体制に戻る予定である。以下、項目別に平成 20(2008)年度～平成 21(2009)年度における本施設の活動の概要を記す。

組織体制では、前述のとおり平成 21(2009)年 3 月 31 日付で高橋 健助教が退任し、同年 4 月 1 日に横浜市歴史博物館学芸員に就任した。後任は、平成 21(2009)年度に関しては空席となったが、それを補う意味で平成 21 年 7 月～平成 22 年 2 月の間、山田香織が本施設の教務補佐員に就任した。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費補助金基盤研究(B)「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」(平成 19(2007)年度～平成 22(2010)年度を予定)である。また、高橋が研究代表者となって科学研究費補助金若手研究・スタートアップ「環オホーツク海・環ベーリング海地域における海獣狩猟文化の成立・変容過程の研究」(平成 19(2007)年度～平成 20(2008)年度)の助成を受けた。ほかに考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費「東北アジアにおける定着的狩猟採集社会の形成および変容過程の研究」(平成 19(2007)年度～平成 22(2010)年度を予定)に熊木・高橋が連携研究者として加わった。これらの課題の研究計画を軸として北海道・東京・ハバロフスクなどで調査研究を実施し、それらの成果の一部として常呂実習施設研究報告第 7 集『千島列島先史文化の考古学的研究』(本書)を刊行した。また、科学研究費補助金基盤研究(A)「極東古集団の形成・統合」(研究代表者：白杵 勲札幌学院大学教授、平成 21(2009)年度～平成 25(2013)年度を予定)には熊木が連携研究者として、科学研究費補助金基盤研究(B)「日本列島北部の更新世／完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」(研究代表者：佐藤宏之 東京大学教授、平成 17(2005)年度～平成 20(2008)年度)には高橋が研究協力者として協力し、発掘調査などに参加している。なお、後者の調査成果は常呂実習施設研究報告第 6 集『日本列島北部の更新世／完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究』(佐藤宏之編、2009 年)として本施設より刊行されている。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 15(2003)年度より調査継続中のトコロチャシ跡遺跡史跡整備事業に伴う発掘調査を、北見市教育委員会と連携しながら平成 20(2008)年度・平成 21(2009)年度とも実施した。また平成 21(2009)年度にはトコロチャシ跡遺跡の調査と併行して、大島 2 遺跡の地形測量調査もおこなっている。

博物館学実習も平成 19(2007)年度と同様に開講された。平成 20(2008)年度～平成 21(2009)年度の同

実習 A では、北見市教育委員会がおこなっている「ところ遺跡の森」復元竪穴住居修復作業に協力するなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

2 実習

<平成 20(2008)年度>

博物館学実習 A

開講期間	平成 20 年 7 月 20 日～7 月 28 日 (7 月 29 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・常呂交通ターミナル資料整理・ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 12 名・大学院生 (TA) 1 名

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 20 年 8 月 20 日～9 月 5 日
調査遺跡	トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点(史跡常呂遺跡) チャシ壕及びトレンチ調査
受講者等	学部生 7 名・大学院生 8 名(新領域創成科学研究科、および TA を含む)・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 3 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 7 名・見学者 4 名

博物館学実習 B

開講期間	平成 20 年 9 月 6 日～9 月 13 日 (9 月 14 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 4 名・大学院生(TA)1 名

<平成 21(2009)年度>

博物館学実習 A

開講期間	平成 21 年 7 月 19 日～7 月 27 日 (7 月 28 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業・遺跡の森ワークシート作成・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 4 名・大学院生 4 名 (TA1 名を含む)

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 21 年 8 月 20 日～9 月 5 日
調査遺跡	トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (史跡常呂遺跡) チャシ壕調査 大島 2 遺跡 地形測量調査
受講者等	学部生 4 名・大学院生 7 名 (新領域創成科学研究科、および TA を含む)・当施設教員等 2 名・考古学研究室教員 3 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 6 名・見学者 10 名

博物館学実習 B

開講期間	平成 21 年 9 月 7 日～9 月 13 日 (9 月 14 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 4 名・大学院生(TA)1 名

3 調査研究活動

① 研究助成金（下線は当施設教員、以下同じ）

平成20～21年度 科学研究費補助金 基盤研究（B）（平成19～22年度を予定）

「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」（課題番号：19320124）

研究代表者：熊木俊朗 研究分担者：大貫静夫 連携研究者：高橋 健

平成20年度 科学研究費補助金 若手研究・スタートアップ（平成19～20年度）

「環オホーツク海・環ベーリング海における海獣狩猟文化の成立・変容過程の研究」

（課題番号：19820008）

研究代表者：高橋 健

平成20年度 三菱財団人文科学研究助成（平成19～20年度）

「紀元一千年紀における間宮海峡先史文化の研究 - 日本列島と大陸を繋ぐ「北回りの交流」の成立過程 -」

研究代表者：熊木俊朗 協同研究者：高橋 健、福田正宏

平成20～21年度 科学研究費補助金 基盤研究（B）（平成19～22年度を予定）

「北東アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究」

（課題番号：19401030）

研究代表者：大貫静夫 連携研究者：佐藤宏之、辻誠一郎、熊木俊朗、高橋 健、福田正宏

平成20年度 科学研究費補助金 基盤研究（B）（平成17～20年度）

「日本列島北部の更新世／完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」

（課題番号：17320121）

研究代表者：佐藤宏之 研究分担者：辻誠一郎、安齋正人、吉田邦夫 研究協力者：高橋 健

平成21年度 科学研究費補助金 基盤研究（A）（平成21～25年度を予定）

「極東古集団の形成・統合」

研究代表者：白杵 勲 研究分担者：小畑弘己、坂本 稔、高瀬克範 連携研究者：大貫静夫、熊木俊朗、石川日出志、福田正宏

② 主な調査

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 マラヤガバン遺跡 発掘調査（ハバロフスク州国立極東博物館との共同調査）

調査期間：平成20年8月4日～18日（内田・森先・國木田は25日まで）

参加者（日本側）：大貫静夫、佐藤宏之、熊木俊朗、福田正宏、内田和典、森先一貴、國木田大
北見市トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 史跡整備事業に伴う発掘調査（北見市教育委員会との共同調査）

調査期間等：前掲（野外考古学Ⅱの項）のとおり

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業（第3次調査）

調査期間：平成20年10月1日～10月15日、平成21年2月25日～3月26日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、高橋 健、中村雄紀、森先一貴、國木田大、尾田謙好、赤井文人、役重みゆき、古西里美

函館市北方民族資料館 所蔵資料調査（於：函館市北方民族資料館）

調査期間：平成 20 年 11 月 24 日～ 29 日

参加者：熊木俊朗、榊田朋広

東京大学総合研究博物館所蔵 千島列島出土考古資料調査（於：東京大学総合研究博物館）

調査期間：平成 20 年 12 月 15 日～ 19 日、平成 21 年 2 月 1 日～ 8 日

参加者：高橋 健、熊木俊朗、根岸 洋、榊田朋広、森先一貴、大澤正吾、古西里美、役重みゆき、高瀬光永、福田正宏

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 マラヤガバン遺跡 遺物整理作業（於：ハバロフスク州極東国立博物館）

調査期間：平成 20 年 12 月 19 日～ 29 日（熊木・高橋・福田は 22 日～ 29 日）

参加者（日本側）：熊木俊朗、高橋 健、福田正宏、内田和典、森先一貴、國木田大

アメリカ合衆国立自然史博物館 所蔵資料調査（於：アメリカ合衆国立自然史博物館）

調査期間：平成 21 年 3 月 8 日～ 15 日

参加者：高橋 健

ロシア連邦ハバロフスク地方ハバロフスク地区 クニャーゼ・ボルコンスコエ 1 遺跡 発掘調査（ハバロフスク州極東国立博物館との共同調査）

調査期間：平成 21 年 8 月 3 日～ 17 日

参加者（日本側）：大貫静夫、熊木俊朗、福田正宏、内田和典

北見市大島 2 遺跡 地形測量調査（北見市教育委員会との共同調査）

調査期間等：前掲（野外考古学Ⅱの項）のとおり

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業（第 4 次調査）

調査期間：平成 21 年 10 月 8 日～ 10 月 29 日、平成 22 年 2 月 25 日～ 3 月 12 日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、尾田識好、林和広、役重みゆき、古西里美、夏木大吾、村田一貴、山田香織

ロシア連邦ハバロフスク地方ハバロフスク地区 クニャーゼ・ボルコンスコエ 1 遺跡遺物整理作業（於：ハバロフスク州極東国立博物館）

調査期間：平成 22 年 2 月 15 日～ 22 日

参加者（日本側）：熊木俊朗、福田正宏、内田和典、森先一貴、國木田大

③ 教員による発表論文等

（熊木関連分）

・著書・論文・調査報告等

2008 年 3 月 「続縄文文化」斜里町知床博物館編『知床の考古』北海道斜里町・斜里町教育委員会、140-148 頁。

2008 年 7 月 熊木俊朗・高橋 健編『世界遺産と常呂遺跡』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北海道北見市・北見市教育委員会、77 頁。

2008 年 10 月 「続縄文期における北方文化の構図」明治大学文学部考古学研究室編『地域と文化の考古学Ⅱ』六一書房、39-54 頁。

2009 年 3 月 「オホーツク土器の編年と各遺構の時期について」米村 衛編『史跡 最寄貝塚』網走市教育委員会、303-319 頁。

- 2009 年 12 月 「サハリンの城郭」天野哲也ほか編『中世東アジアの周縁世界』同成社、271-274 頁。
 2010 年 2 月 「オホーツク土器の編年と地域間交渉に関する一考察」菊池徹夫編『比較考古学の新天地』同成社、709-718 頁。
 2010 年 3 月 「特集『続縄文文化の特色』 総論－最近の研究動向から－」『北海道考古学』第 46 輯(印刷中)。
 2010 年 3 月 熊木俊朗・高橋 健編『千島列島先史文化の考古学的研究』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、92 頁(本書)。

・口頭発表

- 2008 年 5 月 福田正宏・I.Shevkomud・大貫静夫・熊木俊朗・高橋 健・内田和典・森先一貴・國木田大・吉田邦夫・S.Kosityna・M.Gorshkov・E.Bochkareva・佐藤宏之・辻 誠一郎・A.Konopatskii 「東シベリアとアムール下流域との先史狩猟採集民間にみられる交渉関係史の解明」日本考古学協会 2008 年度大会、100-101 頁、東海大学。
 2009 年 2 月 森先一貴・I. Shevkomud・福田正宏・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・高橋 健・内田和典・國木田大・吉田邦夫・S. Kosityna・M. Gorshkov・E. Bochkareva・A. Konopatskii 「マラヤガバニ遺跡における考古学的調査(2008 年度)」『第 10 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、5-8 頁、東京大学。
 2010 年 3 月 熊木俊朗・山田 哲「北海道北見市トコロチャシ跡遺跡・大島 2 遺跡 調査報告(2008 年度・2009 年度)」『第 11 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、石川県立歴史博物館。

(高橋関連分)(2009 年 3 月まで)

・著書・論文・調査報告等

- 2008 年 3 月 「知床半島の骨角器」斜里町知床博物館編『知床の考古』北海道斜里町・斜里町教育委員会、178-185 頁。
 2008 年 7 月 熊木俊朗・高橋 健編『世界遺産と常呂遺跡』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北海道北見市・北見市教育委員会、77 頁。
 2009 年 3 月 「モヨロ貝塚出土の骨角器について」米村 衛編『史跡最寄貝塚』網走市教育委員会、320-336 頁。

・口頭発表

- 2008 年 4 月 「続縄文時代の骨角器：銚頭」北海道考古学会 2008 年度研究大会、札幌大学。
 2008 年 5 月 福田正宏・I.Shevkomud・大貫静夫・熊木俊朗・高橋 健・内田和典・森先一貴・國木田大・吉田邦夫・S.Kosityna・M.Gorshkov・E.Bochkareva・佐藤宏之・辻 誠一郎・A.Konopatskii 「東シベリアとアムール下流域との先史狩猟採集民間にみられる交渉関係史の解明」日本考古学協会 2008 年度大会、東海大学。
 2009 年 2 月 森先一貴・I. Shevkomud・福田正宏・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・高橋 健・内田和典・國木田大・吉田邦夫・S. Kosityna・M. Gorshkov・E. Bochkareva・A. Konopatskii 「マラヤガバニ遺跡における考古学的調査(2008 年度)」『第 10 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、5-8 頁、東京大学。
 2009 年 2 月 「アラスカ・セントローレンス島出土の銚頭」『第 10 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、33-35 頁、東京大学。

4 教育普及活動

① 第12回文学部公開講座

- 主催 東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会
 開講日時 平成20年7月4日 (① 13:40～14:40、② 18:30～20:40)
 プログラム等 ① 常呂高校特別講座 (会場：常呂高等学校体育館)
 「自分の視点、自分の感覚、自分の言葉で参加する司法 - 裁判員制度を考える -」(講師：井上正仁 東京大学大学院法学政治学研究科長・法学部長)
 ② 常呂公開講座 (会場：北見市常呂町中央公民館大講堂)
 第1講「人口が減っても大丈夫な社会とは？」(講師：赤川 学 東京大学大学院人文社会系研究科准教授)
 第2講「無分別のすすめ - 頭を空っぽにすることの大切さ」(講師：丸井 浩 東京大学大学院人文社会系研究科教授)
 東大関係出席者： 井上正仁・丸井 浩・赤川 学・立花政夫 (人文社会系研究科長)・大貫静夫 (人文社会系研究科教授)・熊木俊朗・高橋 健・辰野裕一 (東京大学理事)・野々原明 (文学部副事務長)・ほか文学部事務室職員2名

② 遺跡発掘体験講座

- 主催 東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会
 開講日時 平成21年8月29日 10:00～12:00
 プログラム等 ① 遺跡の概要説明と見学
 トコロチャン跡遺跡・大島2遺跡・常呂川河口遺跡
 ② 遺跡発掘体験
 常呂川河口遺跡
 講師 熊木俊朗・山田 哲(北見市教育委員会)・大貫静夫(人文社会系研究科教授)
 参加者 8名

③ 第13回文学部公開講座

- 主催 東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会
 開講日時 平成21年12月11日 (① 13:40～14:40、② 18:30～20:40)
 プログラム等 ① 常呂高校特別講座 (会場：常呂高等学校体育館)
 「視知覚の不思議」(講師：立花政夫 東京大学大学院人文社会系研究科教授)
 ② 北見公開講座 (会場：北見市端野町公民館多目的ホール)
 第1講「小説になる・ならないルネサンス作家 - レオナルド・ダ・ヴィンチの場合」(講師：小佐野重利 東京大学大学院人文社会系研究科教授)
 第2講「西行はなぜ愛されたか」(講師：渡部泰明 東京大学大学院人文社会系研究科教授)
 東大関係出席者： 立花政夫・小佐野重利・渡部泰明・小松久男 (人文社会系研究科長)・大貫静夫 (人文社会系研究科教授)・熊木俊朗・根岸邦次 (文学部事務長)・ほか文学部事務室職員2名

非常勤講師・委員委嘱等
(熊本関連分)

- 日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師 (平成21年度)
- 東北芸術工科大学 特別講師 (平成21年度)
- 日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員 (平成20年度～平成21年度)
- 北海道考古学会会誌編集委員 (平成20年度・平成21年度～平成22年度)
- 北見市文化財審議委員会委員 (平成20年3月5日～平成22年3月4日)
- 北見市常呂自治区社会教育推進会議委員 (平成20年4月1日～平成22年3月31日)
- 北見市常呂まちづくり協議会委員 (平成20年6月14日～平成22年6月13日)
- 北見市史跡整備専門委員 (平成21年2月1日～3月31日、平成22年2月1日～3月31日)
- 北見市史編さん委員会委員 (平成21年8月13日～平成23年8月12日)

5 実習施設利用状況

① 研究者の主な受入状況 (本学考古学研究室教員・学生・大学院生による研究は除く)

- 平成20年9月 福田正宏 (東北芸術工科大学芸術学部・専任講師) ほか11名「サロマ湖周辺における人類遺跡の研究」
- 平成20年9月 田口洋美 (東北芸術工科大学芸術学部・教授) ほか7名「オホーツク海沿岸における遺跡群の建築史的研究」
- 平成20年10月 笹田朋孝 (愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター・研究員)「アイヌ文化期の鉄器の資料調査」
- 平成20年11月 角美弥子 (九州大学大学院芸術工学府学術研究員) ほか1名「アイヌの楽器トンコリの本体と製作技法の調査及び資料収集」
- 平成20年11月 山田 哲 (北見市教育委員会・学芸員)・出穂雅実 (札幌市埋蔵文化財センター調査員) ほか5名「総合地球環境学研究所プロジェクトの一貫としての北海道東部遺跡巡検」
- 平成21年7月 小林真理 (東京大学大学院人文社会系研究科・准教授)・ニコル・ルマニエール (東京大学大学院人文社会系研究科客員教授)「北見市周辺の遺跡・博物館等見学」
- 平成21年11月 高瀬光永 (早稲田大学大学院文学研究科・研究生)「常呂実習施設収蔵資料の調査」
- 平成21年11月 鷹野光行 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授)・新田栄治 (鹿児島大学法文学部・教授)「科学研究費 (特定領域研究「わが国の火山噴火罹災地における生活／文化環境の復元」)に関する資料収集調査」
- 平成22年1月 アレクサンドル・I・レベチンツェフ (ロシア科学アカデミー極東支部 北東総合科学研究所 考古学・歴史学研究室長)「オホーツク文化関連出土考古資料の研究」
- 平成22年3月 笹田朋孝 (愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター・上級研究員)「常呂実習施設所蔵資料の分析・研究・保存処理」

② 学生宿舎稼働状況（実習含む 単位：宿泊者1人あたり宿泊数の和）

<平成20（2008）年度>

4月：0	5月：0	6月：0	7月：129	8月：117	9月：235
10月：29	11月：22	12月：1	1月：0	2月：4	3月：12

合計：549名

<平成21（2009）年度>

4月：0	5月：0	6月：0	7月：73	8月：140	9月：163
10月：20	11月：4	12月：0	1月：2	2月：0	3月：33

合計：435名

③ 北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

<平成20（2008）年度>

4月：30	5月：118	6月：86	7月：88	8月：72	9月：76
10月：41	11月：18	12月：1	1月：0	2月：6	3月：14

合計：550名

<平成21（2009）年度>

4月：12	5月：26	6月：26	7月：103	8月：64	9月：46
10月：14	11月：10	12月：10	1月：3	2月：0	3月：4

合計：318名

④ 資料貸出等

特別展「古代北方世界に生きた人々 - 交流と交易 -」（新潟県立歴史博物館・東北歴史博物館・北海道開拓記念館、平成20年4月15日～平成20年11月14日）

トコロチャシ跡遺跡出土オホーツク土器ほか 計3点（貸出）

『日本歴史大事典』電子辞書版（小学館、2010年）

岐阜第二遺跡出土擦文土器 写真1点（再掲載）

6 組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 立花政夫（併任 研究科長・学部長、平成20年度）

小松久男（併任 研究科長・学部長、平成21年度）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名、委員4名）

准教授 熊木俊朗

助教 高橋 健（平成20年度）

教務補佐員 山田香織（平成21年度）

有期雇用職員 2名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 立花政夫（併任 研究科長・学部長、平成20年度）

小松久男（併任 研究科長・学部長、平成21年度）

（文責：熊木俊朗）

東京大学常呂実習施設研究報告 第7集

千島列島先史文化の考古学的研究

2010年3月31日

編集 熊木俊朗・高橋 健

発行 東京大学大学院人文社会系研究科

附属北海文化研究常呂実習施設

北海道北見市常呂町栄浦 384
